

—草花の秋のタネまき—

Q. 草花の秋のタネまきは、どんなところに注意したらよいでしょうか？

A. 秋は寒さに向う時期なので、遅れないようにまくことが大切です。

<ポイント>

秋のタネまきはヒガンバナの咲く頃が標準で、これより早くまきたいものに
デージー、パンジー、キンギョソウがあり、遅れてまくものにルピナス、
スイートピーなどがあります。

1. まきどき

ヒガンバナは23℃くらいで開花しますから、多くの種類はこの時期にまけば順調に発芽します。デージーなどは早くまけばよい苗ができ、花も早く咲いて長い間楽しめます。

ルピナスなどは発芽温度が17℃くらいなので遅くまきます。

2. 種類

キク科 : デージー、アスター、ルドベキア、キンセンカ、ヤグルマギク

ゴマノハグサ科 : キンギョソウ、ヒメキンギョソウ

スミレ科 : パンジー、ビオラ

ナデシコ科 : アメリカナデシコ、セキチク、カスミソウ

ケシ科 : ヒナゲシ、オニゲシ、ハナビシソウ、アイスランドポッピー

アブラナ科 : キャンディタフト、スイートアリッサム、ウォールフラワー、
ストック、

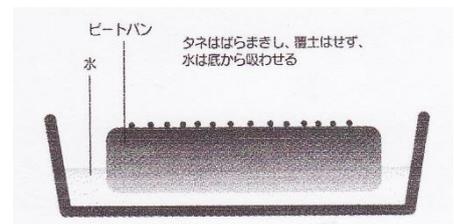
3. タネまき

土 : 赤玉土と腐葉土（またはバーミキュライトやピートモス）を半々に混ぜ
6mm 目のふるいを通して使います。

細かいタネをまくときには鉢土の表面に
3mm 目のふるい土をかけてならします。

ピートバンを使うのもよいでしょう。

(右図参照)



<キンギョソウのタネまき>

覆土 : タネの厚みの2倍の土をかけるのが標準です。

水やり : まく前に十分に水をやっておきます。細かいタネは鉢の下に水を張った皿を置き、下から水を吸い上げさせます。

じかまき : 寒さに強く丈夫なヤグルマギクやキンセンカは、露地の花を咲かせるところにまいて冬を越させられます。移植すると育ちが悪い
スイートピーなどは花壇にじきまします。



—アメリカアジサイ“アナベル”の育て方—

Q. “アナベル”はふつうのアジサイより育てやすいそうですが、どんなところが違うのですか？

A. “アナベル”はアメリカ原産の種の園芸品種で、春から伸びた枝に花をつけます。花の色も土の酸度で変わることはありませんから、剪定や施肥にあまり気を使わなくても育てられます。

<ポイント>

“アナベル”はアメリカ東部原産のハイドラングア アルボレスケンス (*Hydrangea arborescens*)の園芸品種で、小形の装飾花が密についた集合花は大形で株一面に咲きます。

1. “アナベル”の特徴

アジサイの仲間では唯一、花が本年枝の頂部につくため、冬に地上部が枯れても、また春に強剪定しても開花します。耐寒性が強く花つきの容易なこと、花色の変化がなく純白を保つことなどで人気があります。ピンクの品種も登場しました。

2. 用 土

鉢植え・・・赤玉土(小粒)6 と腐葉土 3、パーライト 1の混合など、水はけのよいもの

庭植え・・・庭土に腐葉土かピートモスとパーライトを加えて排水を図ります

3. 植えつけ

秋は9～10月、春は3～4月に半日陰の水はけのよいところに植えます。

4. 水やり

植えた直後は必ず十分に与え、その後は鉢土が乾いたらたっぷり与えます。

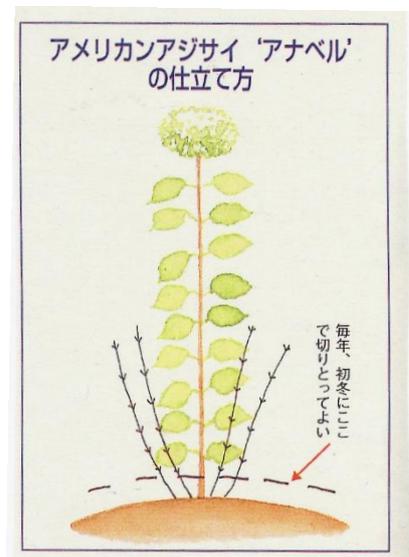
5. 肥 料

12月中旬ないし2月上旬の寒肥が一番大切です。チッソ、リン酸、カリを含む有機配合肥料を、一株当たり100gほど与えます。

鉢植えの場合は土の量が少ないので少なめに2、3回に分けて施します。

お礼肥えは、寒肥が十分なら地植えでは与えなくてもよろしい。

鉢植えでは施したほうがよく、化成肥料50gを梅雨明けごろまでに2-3回に分けて与えます。



夏場の乾燥を防ぐために、ワラやバークでマルチをします。
病気…うどんこ病、炭そ病、さび病。
虫…アブラムシ、ハダニ、コウモリガ。